

【写真アルバム】

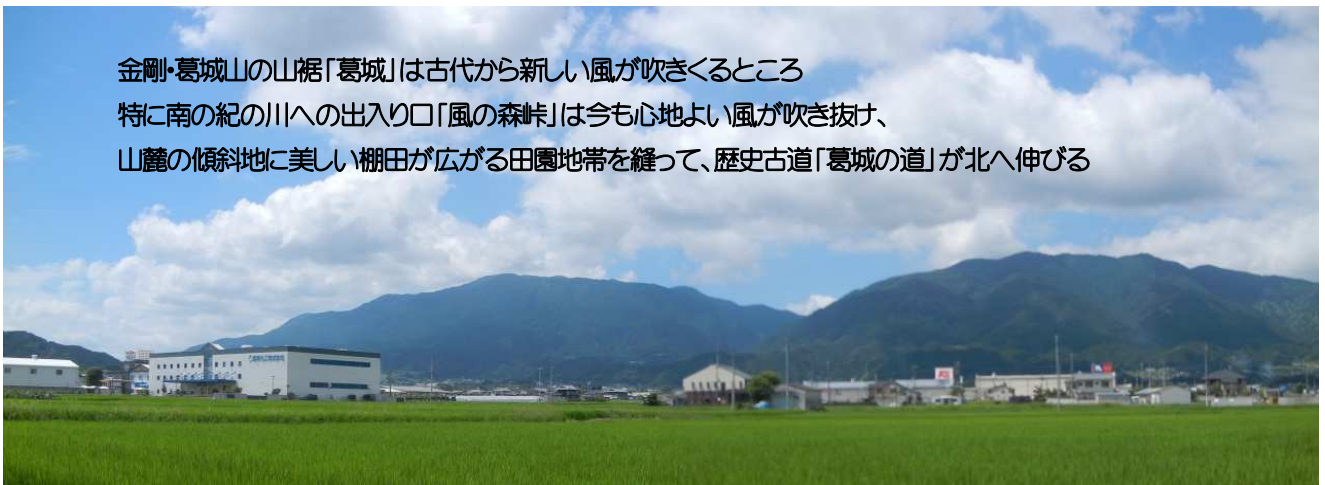
《Iron Road・和鉄の道で》

風の森峠から南郷へ 金剛山東山麓 葛城の道 walk 2015.8.23.

さわやかな夏の風を感じたくて 古代葛城氏の生産工房が眠る美しい棚田が広がる田園地帯



御所市葛城川の岸より 金剛山麓葛城の道 南郷を遠望 2015.8.23.



金剛・葛城山の山裾「葛城」は古代から新しい風が吹きくるところ
特に南の紀の川への出入り口「風の森峠」は今も心地よい風が吹き抜け、
山麓の傾斜地に美しい棚田が広がる田園地帯を縫って、歴史古道「葛城の道」が北へ伸びる

御所市室周辺より 中央に河内へ抜ける水越峠 左:金剛山 右:葛城山 2015.8.23.



国道24号線西寺田で 左: 南 風の森峠・五条紀の川へ 右: 北 葛城山・二上山山裾から大和川竜田越へ
奈良盆地南部「葛城」は古代から 大陸・朝鮮半島の交流拠点 その流入口を眺める



御所市の寺田からバスに乗って国道24号線を
南の風の森峠を目指す 2015.8.23.



南の風の森峠周辺から流れる葛城川 2015.8.23.



御所からバスで約15分 葛城川に沿って 紀の川水系との分水嶺 風の森峠まで 国道24号線を渡る
金剛山の麓に広がる田舎が美しい 2015.8.23.



寺田から流れる金剛山の山麓 2015.8.23.
風の森は金剛山の山麓、北麓に広がる緑豊かな一帯の森です。



葛城川・大和川水系「葛城」

紀の川水系と大和川水系の分水嶺風の森峠 2015.8.23.



吉野川・紀の川水系「五條」



風の森峠

このあたりが日本で早くから水田稲作を始めた地といわれ、金剛山から吹き下ろす風が強く、五穀豊穡と風水害をさけるために風の森峠の頂上の森に風の神 志那都比古神を祭った(風の森神社)。このことから このあたりを「風の森」と言うそうだ。

ただし、地名も「風の森」という森も実際にはない。

また、この風の森周辺は「鴨神」といい、渡来系と言われる豪族 鴨族発祥の地であることから「鴨神」の地名が生まれたようだ。



風の森峠から西へ金剛山麓の傾斜地へ登る急坂 登り口に高鴨神社・風の森の標識が立っている

2015.8.23.



鴨神への急坂を喘ぎあえぎ登る 暑さにばて気味 前は稲穂と空だけ、登り切れば きっと…



喘ぎながら登り切るとパッと視界が開け、緑の棚田が目に見え。
 南正面には吉野・紀伊の山並みが、棚田の向こうに広がる。 畔に座り込んで 紀伊からの風の臭いを楽しむ。
 前にここを歩いたときは 強い風が吹き抜けていましたが 今日は暑い。 でも座り込んでいると心地良し



喘ぎながら登り切るとパッと視界が開け、緑の棚田が目に見え 風の森峠周辺で 2015.8.23.



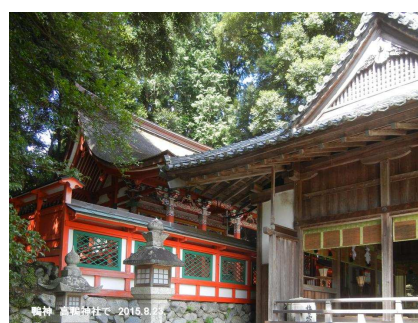
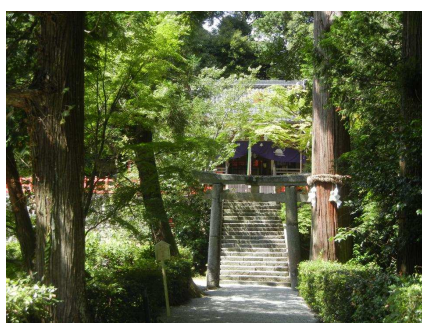
北側は金剛山の傾斜地に広がる田園 葛城山があんなに小さく 2015.8.23.
 葛城の道は 鴨神へは左に折れて 金剛山の正面山裾へ登ってゆく
 この「風の森」の石柱は奥の高鴨神社への道標を示すものと思っていましたが、 逆で右へ
 風の森峠の頂上にある風の森神社への入口を示す案内と後で知りました。



風の森峠の坂を登りましたが、この鴨神地区の金剛山山裾の斜面地はまだまだ上まで、点々と棚田と集落が点々と広がって、美しい緑の景色を作っています 2015.8.23.



広い道路との交差点を北に折れると向こうに赤い鳥居のある高鴨神社の森が見える 2015.8.23.



巨樹の緑に包まれた静かな森の中に高鴨神社の本殿がありました 2015.8.23.

金剛山が背後にしていると思っていましたが、葛城の斜面地を背後に まっすぐ南 紀の川の方を向いていました

この鴨神は鴨氏一族の発祥の地で、高鴨神社はその氏神として祀られたもの。 京都の上賀茂神社、下鴨神社の本家にあたる神社。本殿は三間社流造りで、国の重要文化財に指定されている。祭神は天孫降臨神話の国譲りに登場する大己貴命(大国主命)の子で迦毛大御神とも称され、この鴨神の森に座し、皇孫の守護をした神。

鴨氏はこの丘陵から奈良盆地に出て、葛城川の岸边に移った一族が鴨都波神社を、また東持田に移った一族が葛木御歳神社を祀った。後に、高鴨神社を上鴨社、御歳神社を中鴨社、鴨都波神社を下鴨社と呼ぶようになった。



高鴨神社の森に沿って ぐると金剛山側をま割り込んでさらに北へ 葛城の道を行く。この先は伏見・高天原・極楽寺を経て南郷へ 御所のある奈良盆地 そして 風の森峠からも随分高い高台の斜面地を北へ向いて道が続く。金剛山山腹の巻き道であるが、斜面地全体によく整備された 棚田が張りめぐらさ

れていて、全く山道を歩いている気がない。

よく整備された棚田が続く中を、点々と古代から住み継がれてきた集落がこの斜面地のあちこちに散らばって続き、北側遠くには奈良盆地 南側には吉野・紀伊の山々がみえる。西側すぐ横には金剛山から葛城山の山体の山壁が迫る。

水分補給しながらの夏の暑さを別にすると、それも心地よい。

さえぎる物のない素晴らしい田舎の田園風景を楽しみながら ぶらぶら歩く。



鴨神から伏見へ 谷筋をトラバースして、伏見地区に入ると、また、一気に視界が開け、北の奈良盆地側が見晴らせる。
また、道に沿って 道の上段・下段に広がる緑の棚田が実に気持ちいい。





伏見地区の田園をながめながら、また一つ金剛山の枝尾根を越えると高天原集落への入口。 まだ、この上に集落がある。ちょうど金剛山頂上の真下の位置で、頂上ではないが、奥に鉄塔が見えて、金剛山の中腹と言える位置。 高天集落はこの金剛山の東斜面地の一番高いところにある集落で記紀に記されている「高天原の伝承地」である。

古事記神話に記されている高天原については諸説がありますが、この御所市の高天も、古来より神話の世界である高天原の伝承地で、この高天原集落の静かな森の中に古代豪族葛城氏の氏神高天彦神社がある。

記・紀神話の中で、出雲へ国譲りのための使者を命令した高皇産靈神(たかみむすびのかみ)を祭神とする。

その孫が高天原から地上へ天降った瓊瓊杵尊(ににぎのみこと)。

また、神社東方には「蜘蛛窟」が残っている。 巨大な土蜘蛛が住んでいた場所とも、千筋の脚があった土蜘蛛が埋められた跡との伝承があり、『日本書紀』には、この土蜘蛛伝承から“葛城”という地名が生まれた経緯が語られている。

高天原へのきつい坂道をのぼりきると人家が見え、棚田が広がる美しい景観が見晴らせる。 高天原集落と思いましたが、高天原への道はまだ上へ 森を抜けていく道が続く。 ここへきて、汗が噴き出す。



葛城の道 高天原の直ぐ下 傾斜地の一番上 ここにも棚田が広がって 美しい景観 2015.8.23.



人家が見えたので、高天はすぐかと思いましたが、道は山中に まだまだ奥 2015.8.23.
葛城の道 高天原 奥に高天彦神社参道の入口が見える

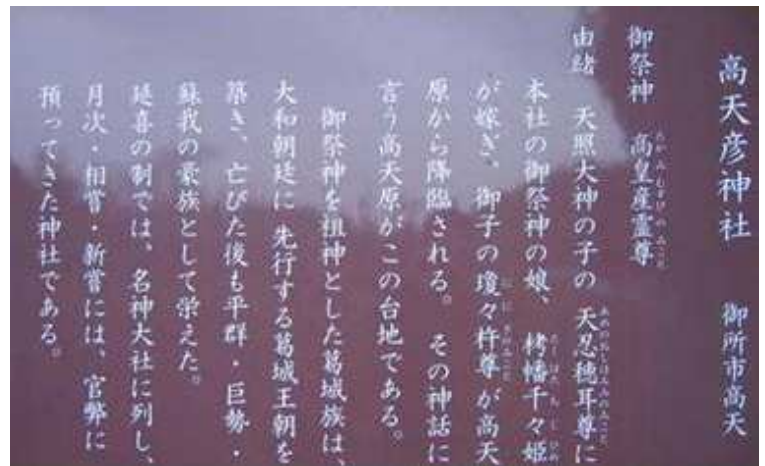


高天原 高天彦神社 参道入口 車道は右へ曲がって さらに奥へ続く 2015.8.23.



ここで ついに水切れ
きつい 座り込んで 眼下の
景色をしばし眺める。
少し登りましたが、まだ 南郷
を歩かねばならないと
ここで 下ることに

高天原 高天彦神社 参道入口さらに奥 高天原に車道が続く 2015.8.23.



インターネットから採取した高天彦神社

残念ながら今回は行きつくことができず。次回です。
暑さに水切れはやっぱり堪えました。
でも 一番高いところ 眼下に広がる田園の眺めは最高でした。



高天彦神社参道前から眺める奈良盆地遠望 2015.8.23



高天彦神社参道前から眺める吉野・大峰の山々 遠望 2015.8.23

高天からまっすぐ極楽寺集落の県道へ降りる。途中 田圃の畦道に入って北へ下りながら元の県道まで戻る。
 出た所は 以前 葛城氏の祭殿が出た極楽寺ヒビキ遺跡の現地説明会に行った時に 案内バスを降りたところ。
 ここから 極楽寺ヒビキ遺跡へ向かって 下の集落へ下ったところだった。眼を北の県道に向けるとすぐ県道の西側に極楽寺が見える。今 極楽寺ヒビキ遺跡はどうなっているのだろうか？



来た道へすこし下ったところから、わき道に入って 農道を県道まで下る 2015.8.23、



県道へ出た所 ここは以前 葛城氏の祭殿ヒビキ遺跡の入口で案内バスを降りた所だつた インターネットより

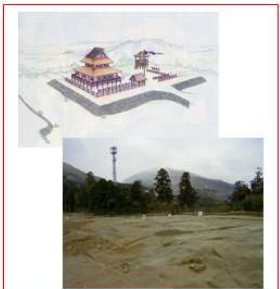


道の左手に極楽寺 その向こう右手に鉄塔の見える森が見える

葛城氏の居館・祭殿が出土した極楽寺ヒビキ遺跡は 正面鉄塔の手前すぐ下の
 南郷を見下ろせる高台

寒い寒い2月の朝 凍えそうになりながら発掘現場を見学した記憶がある。

葛城氏の祭殿跡 極楽寺ヒビキ遺跡



道は鉄塔の見える森をまきながらの下り坂。長い下り坂 右手の標識には「何号」。すぐ横に先ほど見た鉄塔。
残念ながら ヒビキ遺跡の中へは行けませんでした。坂の正面は、また視界が開けて南郷の田園が広がっている。



鉄塔の所からはさらに北へ下る坂道で南郷に下ってゆく 2015.8.23.



極楽寺から南郷へ下ってゆく坂道からは眼下に南郷の田園地帯がひろがっていました 2015.8.23.



葛城の道より すぐ直下の南郷の田園地帯を見下ろす 2015.8.23.

南郷の丘陵地の主要部はすぐ下。 樹木に覆われて見えていないが、 南郷の傾斜地の一番下の国道 24 号線に近い下茶屋周辺が見えている。 緑が実に美しい。

奈良盆地の東の端を縁取る青垣の山々 中央に三輪山がみえ、室生の山々へと続き、 それらの山々をバックに 左奥から中央部にかけては遠く奈良盆地の中央部が見え、 大和三山も見えている。 また、その右奥に室・宮山古墳が見えている。 一番手前が南郷の田園地帯である。

北の名柄へ向かう県道 30 号線・葛城の道から外れ、南郷地区井戸・佐田の集落へ入る手前の道から、東へ南郷の田園地帯へ降りてゆく。 今までの金剛山に代わって 北西側に葛城山がどっしり座っている。

田園地帯の中にぽつぽつとし小さな集落が点在し、その週宇井には美しい棚田 緑の田園が広がっている。

このよく整備された段々の田園地帯はかつて、葛城氏の生産工房に関係した南郷集落群があった。

葛城氏の鍛冶工房跡を訪ねて何度か訪れたことがあるが、この田園の中を歩くのは本当にひさしぶり。



南郷地区の井戸・佐田の集落に下る少し手前から東へ下る 見上げると北西側バックに葛城山 2015.8.23.



葛城氏の南郷生産工房群

- 「葛城の王」の「高殿」「祭殿」と導水施設
榊堂寺ヒビキ平遺跡・南郷安田遺跡・南郷大東遺跡
- 武器生産をおこなった特殊工房
南郷角田遺跡
- 大型倉庫群
井戸大田台遺跡
- 手工業生産を指導した鏡方(中隴)屋の居住地
南郷柳原遺跡・井戸井橋遺跡
- 鉄器生産・玉生産・竊衆生産・ガラス生産などの
一般住民居住地
下茶屋カマ田遺跡・南郷千部遺跡・南郷生家遺跡・
南郷田鏡遺跡・佐田柚ノ木遺跡・佐田クノ木遺跡・
林遺跡・井戸池田遺跡
- 土器棺墓からなる一般住民の墓地
南郷丸山遺跡・南郷岩下遺跡
など



夕暮れ時 南西側の南郷の田園地帯に野焼きの煙がたなびいている。 見たかった南郷の田園の景色。



■田が見える南郷の夕暮れ。 ■田の煙がゆっくりと野焼きの煙がたなびいて。 2015.8.23.



金剛山をバックに美しい棚田が広がる南郷の地帯。 2015.8.23.



棚田が広がる南郷の田園の夕暮れ。 水越峠をながめる。 2015.8.23.

見たかった南郷の田園の景色 左:南郷の田園 中央:南郷の一番下を流れる葛城川 南郷の北端 水越峠から葛城山



美しい棚田が広がる南郷の田園で 2015.8.23.

美しい田園地帯が広がる南郷の田園で こんな写真もとれました 2015.8.23.



美しい棚田が広がる南郷の田園の畦道で 2015.8.23.



美しい田園地帯が広がる南郷の田園の畦道で 2015.8.23.



御所市室周辺より 中央に河内へ抜ける水越峠 左：金剛山 右：葛城山 2015.8.23.

「葛城」は古代から新しい風が吹きくるところ
心地よい風が今も吹き抜ける

夏のさわやかな風を感じたくてのwalk
金剛山の丘陵地に広がる美しい棚田群を
心地良い風が郷を吹き渡る風の森・風の郷

帰りには 今回も野焼きの煙が棚田の郷に漂い
郷の夕暮れを演出する

久しぶりの風の森・葛城道
足の向くまま 気の向くまま
多少 ばててしまいましたが、
これぞ風来坊の醍醐味

心地よいバスに揺られながら 2015.8.23.夕



風の森峠から南郷へ 金剛山東山麓 葛城の道walk 2015. 8. 23.



御所市葛城川岸より 金剛山麓葛城の道 南郷を遠望

古代葛城氏の生産工房が眠る美しい棚田が広がる田園地帯
古道が通る素の郷を吹き抜けるさわやかな風とあそびながらの楽しいwalkでした

2015.8.23. by Mutsu Nakanishi

参考 和鉄の道・Iron Road

1. 金剛・葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」 渡来人が住み鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」 2005.2.
2. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf>
2. 古代 大和への道【4】 古代「紀路」紀ノ川の流れて大和へ Country Walk 2007.7.
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf>
3. 「大和平野は弥生時代のはやくから 大穀倉地帯だった ???」
国内最大級弥生時代前期の水田跡2千枚が出土?御所市 中西遺跡 2011.11.25.
高い計画性と技術は大和の国力の源泉
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/11iron16.pdf>



稲穂への金糸と暑さにばて気味。前は棚田と空だけ。登り切れば さっと・・・ 2015.8.23.